地域の魅力をデザイン

明石　浩一
（大仙市地域おこし協力隊）
（大仙市役所 広報公聴課所属）

1　大仙市地域おこし協力隊を選んだ理由

私は秋田市出身で、高校を卒業後は東京に就職をして、約25年間東京で生活をしていました。これまでは、独学で培ったグラフィックデザインを生かしたデザインの仕事や、プロモーションに関する仕事に携わってきました。

いつかは秋田に帰ろうという思いが心の中にはあったのですが、漠然と考えながら忙しい日々に追われていました。仕事は順調でしたが、40代になり人生は折り返し地点。ふと「この窮屈な生活をいつまで続けるんだろうか？」と考えるようになりました。

まだまだ現役ですが、これから50代、60代をどう生きるのかを意識し始めていました。毎日早朝から深夜まで仕事に追われ、週末も出張で全国を飛び回る日々。人にも恵まれ楽しいからこそ続けることができましたが、「これを定年まで続けられるのか？」「続けたいのか？」と自分に問いかけるようになりました。そう考えていた時に、仕事で大きな成果を上げて、「これがこの仕事で自分のできる限界じゃないだろうか」という思いに至りました。

「自分はここで頑張るしかない」と思い込んでがむしゃらにやってきましたが、このことがきっかけで、東京での生活や仕事に区切りをつける覚悟ができ、「秋田に帰るなら今だ！」と思い立ち行動に移しました。

さっそく転職のために秋田の求人を探しましたが、私のような少し特殊な職種の求人は無く、頭を悩ませていたところ、「地域おこし協力隊」の求人を見つけました。漠然とではありますが「いつか秋田のために力になりたい」と考えていた私にとって、地域おこし協力隊という制度がしっくりきて、まるで何かに引きつけられるかのように、即応募しました。

はじめは一人も知り合いのいない土地で不安もありましたが、「地域おこし協力隊」ということで地元の皆さんも快く受け入れてくれ、すぐに仲間入りすることができました。

イベントの運営にボランティアとして参加したり、農家さんの農作業を手伝ったり、さまざまなコミュニティに参加することで顔と名前を覚えてもらい、自分の居場所を作ることができました。また、そうして地元の方々とコミュニケーションを図っていく過程で、この地域の抱える問題や、自分に求められていることが見えてきて、その後の活動につながっていくことになります。

2　活動ミッション

私の活動ミッションは、市のプロモーションに関わること全般です。広報紙やホームページの作成、ＳＮＳを活用した情報発信や、観光や特産品のプロモーション、新たな観光資源の開発などです。

市の広報というと堅いイメージでしたが、そのような場所に私のような畑違いの人間が関わることで、新たなカタチが生まれるのではないかと思っていました。そこでまず取り組んだのは、毎日の情報発信です。ＳＮＳを活用して毎

日市内の様々な情報を発信し、地域に根付かせることを目標にしました。定着するまで時間はかかりましたが、1年でフォロワー数は倍増し、市の情報発信源になりました。

3　「大曲の花火」を活用した新たな取り組み

協力隊に着任して常に考えていたのは、「大曲の花火」を活用した新たな観光資源を作れないかということでした。

大仙市の重要な観光資源である「大曲の花火」。年に3回開催されており、春と秋は5万人以上、夏の全国花火競技大会では30万人以上が、この小さな街に押し寄せます。全国的に有名な「大曲の花火」に関われるというのはとても光栄なことで、私が協力隊として大仙市を選んだのは、この「大曲の花火」を活用した地域おこしをしてみたいという思いがあったからです。

これまでプロモーションに関わる仕事で撮影の現場にも携わって来ましたが、いつもロケーション探しに苦戦していたこともあり、ロケーション抜群の大曲の花火を背景に写真を撮ってみたいと思っていました。これまでに、ウェディングフォト、家族写真、ポートレート、インフルエンサーとのコラボ動画など、さまざまなパターンで撮影しました。

（水面に映る浴衣美人と「大曲の花火」）

会場で花火を鑑賞するだけでなく、日本三大花火大会と称される、この「大曲の花火」を背景に、いろいろな記念写真が撮れたら素敵な思い出になるはずです。活動を継続してより良いカタチを見つけ出し、新たな観光資源としてつくり上げることを目標にしています。

4　雪国のロケーションを生かしたイベント

大仙市に移住して間もなく2年になりますが、四季を通じて表情を変える素晴らしい景色にいつも癒されていました。これを写真や動画だけではなく、実際に体感してほしいと思い、昨年、そのロケーションを生かした屋外サウナイベントを実施しました。見渡す限り一面の雪景色と、視界を遮るものがない広い大地を感じながら、非日常を愉しむ。市内外から集まったサウナ好きの皆さんに、この大仙市ならではのロケーションの中でのサウナを堪能していただきました。

このようなイベントを開催し、新たな“地域の魅力”として発信していくことで、地域の活性化につながっていくと思っています。特に冬季は、雪の影響で市内のイベントが少なくなるので、雪国ならではの企画を今後も打ち出していきたいと考えています。

5　初めての動画制作

また、昨年は「あきたふるさと手作りCM大賞」に出品する作品の、企画・撮影・編集を担当することになり、私自身初めての経験となる動画制作に取り組みました。

まずは過去の他市町村の受賞作品を観るところからはじめ、わずか30秒の中にどんな魅力を詰め込めるか企画を練り、ふるさとを思い出すような景色や、そこに住む人たちの表情や温かさが伝わる作品にしたいと考えました。動画の撮影は、デザインの仕事の延長で撮っていた写真撮影の画角や構図を引用して、見よう見まねで行いました。

編集に一番苦労しましたが、これまで使ったこともない動画編集アプリを使い、映像･音声･ＢＧＭ・テキストに分けて、何度も手直しを加えながら自分の納得のいくものに仕上げました。全てが手探りでの作業でしたが､「大仙市の魅力を伝えたい！」という一心で取り組み、結果として審査員特別賞を受賞することができました。高い評価を得たことで次は最優秀賞を狙いたいという意欲が湧いてきました。このような経験も全て、退任後の自分の活動に役立つと思い、新しいことに積極的に挑戦し続けています。

（あきたふるさと手作りCM大賞出品作品）

６　地域おこし協力隊マーケットを開催

私がボランティアで実行委員として参加している、大仙市内で最大規模のマーケットイベント「丸子川ナイトマーケット」。昨年、その一部エリアを使って、秋田県内各地の地域おこし協力隊に声をかけて出店者を集めた「地域おこし協力隊マーケット」を開催しました。それぞれの活動の中から生まれた商品や体験を持ち寄り、当日は各協力隊員を紹介するインスタライブ配信なども実施しました。

このイベントを実施したのは、秋田県内の協力隊が個々に活動するだけでなく、協力し合って情報を共有して発信することで、個々の発信力も身につき、活動の幅も広がっていくのではないかと思ったからです。自分たちの地域だけでなく、秋田県全体が注目されるような地域おこしのカタチを作るのが、私の最終目標です。

（「協力隊ラジオ」と称した
インスタライブ配信　左が私）

７　大仙市地域おこし協力隊フリーペーパーを発刊

昨年は、大仙市地域おこし協力隊としては初めてとなる、フリーペーパーも発刊しました。各隊員の活動内容や、市内のおすすめスポットの紹介などを掲載しています。

隊員の活動内容は毎月の市の広報紙で紹介されていますし、ＳＮＳでも都度報告はしていますが、普段活動をしていて、まだまだ協力隊の認知度は低いと感じていました。広報紙やＳＮＳを見ていない層への周知を図るためだけでなく、我々が活動をしながら出会う方々へ手渡すことで、大仙市の地域おこし協力隊を知っていただく効果的なツールとして活用しています。今後も私の任期中は半年に１回のペースで発行していく予定です。大仙市内だけでなく、秋田県内で関わりのある場所へ置かせていただいていますので､見かけたらぜひ手にとってみてください。

協力隊の任期はあと１年とちょっと。私らしく、地域のために１つでも多くの成果をカタチにするため、熱意を持って挑戦し続けたいと思っています。